

登録コード	A3595448	開講年度	2026				
授業科目	専攻研究					担当教員	松島 憲一
英文授業名	Thesis Research						
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	4年生
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	教員内線電話：2504（講座名：機能性食料育種学(独立専攻)，研究室名：植物遺伝育種学）
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している				植物遺伝育種学に関する専門的な研究を計画、実施できている。		
	【2022年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				植物遺伝育種学に関する専門的な研究を計画、実施できている。		
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				植物遺伝育種学に関する専門的な研究を計画、実施できている。		
	【2024年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				植物遺伝育種学に関する専門的な研究を計画、実施できている。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・ 専攻研究 ， ， を通して，植物遺伝育種学の演習および研究の実施と論文の取りまとめを行い，科学的思考力，課題解決能力，プレゼンテーション力を養成します． ・ 専攻研究 では，ゼミと研究の実施を通して，研究に必要な計画および手法の能力の向上を修得します． ・ 指導は教員2名により実施します．						
(5)授業計画	1 ガイダンス 2 英語文献読解の応用(1) 3 英語文献読解の応用(2) 4 フィールド調査の応用(1) 5 フィールド調査の応用(2) 6 中間まとめ 7 成分分析の応用(1) 8 成分分析の応用(2) 9 組織培養の応用(1) 10 組織培養の応用(2) 11 DNA分析の応用(1) 12 DNA分析の応用(2) 13 発現解析の基礎 14 発現解析の応用 15 研究課題の設定・まとめ 最後の15分間は授業アンケートに回答するための時間とします						
(6)自主学習の指針	・ 指示された文献等を事前に自主学習してくることで理解が深まります． ・ ゼミの時間以外も，研究室に来て，先輩学生の研究補助を通じて実験技術やデータ取りまとめの方法を自主的に学習して下さい． ・ 学生による自主ゼミもあります．						
(7)成績評価の基準	秀： 授業の達成目標水準から見て卓越している（難しい応用問題が解ける） 優： 授業の達成目標水準よりかなり上にある（やや難しい応用問題が解ける） 良： 授業の達成目標水準よりやや上にある（応用問題が解ける） 可： 授業の達成目標水準にある（例題と同レベルの問題が解ける） 不可（D）： 授業の達成目標水準よりやや下にある 不可（F）： 授業の達成目標水準にない						
(8)事前事後学習の内容	・ ゼミには，事前に配布される英文資料を事前学習して理解してくることが必須です． ・ ゼミで指摘されたことについて図書館等で資料を検索して事後学習することで，専攻研究が深まります．						
(9)テストやレポートの予定	・ 随時，文献紹介の要旨および専攻研究テーマに関連する課題についてのレポートの提出を指示します． ・ 卒業論文発表会での発表と卒業論文の提出が義務です．						
(10)成績評価の方法	・ ゼミへの参加とレポート等の提出、専攻研究の実施状況により総合的に評価します．						

(11)質問、相談への対応および連絡先	・質問，相談については，随時対応します．メール等でも対応します． ・連絡先 C棟4階 松島憲一 0265-77-1639 matuken@shinshu-u.ac.jp 根本和洋 0265-77-1619 knemoto@shinshu-u.ac.jp
(12)履修上の注意	・3年生後期から4年生後期まで専攻研究 ， ， の順に全てを履修してください． ・履修には、基本的には3年生前期までに遺伝学，植物遺伝育種学および植物遺伝資源学を履修していることが条件となります．
【教科書】	使用しません．
【参考書】	必要に応じて参考となる論文や書籍を指示します．